

事務 事業名	コード1	9900	社会福祉総務事務費	課	社会福祉課		
	コード2		合同金婚式 ☐ 主要事業	所属班	社会班		
施策 体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり	電話番号	62-5317	内線	144
	施策	4	高齢者福祉の充実	予算	会計		款 項 目
	施策の展開	4	生きがいづくりの推進	科目	一般会計		3 1 1
	基本事業			根拠法令	特になし		

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成__年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成__年度～ 平成__年度まで ※全体像を記述⇒	結婚50周年夫婦に対し、合同金婚式へ招待し、式典への列席・記念品の贈呈・祝宴に臨んでいただき、演芸等の披露を行う。 【開催時期】毎年11月上旬 【開催場所】黄鶴 【式典内容】祝辞・記念品贈呈 【記念品】湯のみ茶碗 【業務の流れ】 対象者について、広報・区長回覧により募集する。 業務本体は委託契約により社会福祉協議会が実施する。 式当日は職員数人が従事する。

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1. 委託料	1,292
会食代775千円・記念品代227千円・写真代178千円	
その他(通信費・消耗品)112千円	0
	0
	0
	0
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
式当日の従事、対象者名簿の作成等	

事業費	費目内訳	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	1. 委託料	千円	945	1,196	1,292	1,756
人件費	事業費計(A)	千円	945	1,196	1,292	1,756
	うち一般財源	千円	945	1,196	1,292	1,756
人件費	正規職員従事人数	人	0.01	0.01	0.01	0.01
	延べ業務時間	時間	27	27	27	27
人件費	人件費計(B)	千円	103	103	103	103
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,048	1,299	1,395	1,859

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 式の開催(式典、記念品贈呈、祝宴)	ア 式の開催	回	1	1	1	1
目的	26年度計画(26年度に計画している主な活動) 式の開催(式典、記念品贈呈、祝宴)	イ 広報掲載回数	回	1	2	1	1
		ウ					
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	結婚50周年となり夫婦とも健在であり、対象者としての申込みをした者	ア 結婚50周年を迎える夫婦の数	組	不明	不明	不明	不明
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	イ 参加者	人	110	174	143	240
	長寿を祝福される	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	ア 参加者	人	110	174	143	240
	高齢者の福祉の増進 今後も生きがいを見出して、長寿で健康に過ごしていただく。	イ 長寿を祝福されたと感じた者の人数	人	不明	不明	不明	不明
上位目的		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
		ア 高齢者に占める要介護認定者の割合 (65歳以上要介護者認定者数/65歳以上高齢者数)	%	13.6%	14.1%	14.6%	14.8%
		イ 平均寿命	歳	H22 男79.0 女86.1	データなし	データなし	データなし

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
不詳	変わりなし	住民は、自身が対象者となり式に参加することを期待している。

事務事業名	社会福祉総務事務費 合同金婚式	課名	社会福祉課	班名	社会班
-------	--------------------	----	-------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 高齢者福祉の充実や生きがいを持っていただくことで福祉の増進につながる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 50年間の長きにわたり、地域社会に寄与され、祝福すべきである。 金婚式は結婚50周年を祝う行事であり、適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 本来、この種の行事は家庭で済ませるのみとし、必ずしも市が実施する必要はない。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 成果は十分に挙げられている(この行事は住民に周知されている) 対象者(人数は把握不可能)は、ほぼ全員参加していると思われる。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 対象者となるべく健康維持に注意を払う者が増えることが期待できる。 満足度を上げるため、広報紙に式典等の状況を多ページに掲載する。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(敬老大会) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の敬老大会とは対象者が年齢のみの規定ではない点で相違するため、統合・連携はできない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 祝宴の部分を会費制にするか、または宴会部分を省略し、赤飯の持ち帰りとするか、赤飯等の食料も提供しないことで事業費を削減する余地はある。 また、参加者の見込み数を精査することで事業費を削減する余地はある。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 金婚式の実施そのものは社会福祉協議会に委託しているため、職員の業務時間はほとんどなく、今以上の削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 対象者は、健康で介護も要さないという点で、将来対象者となるべく健康維持に心がける者が増加する。 高齢者に敬意を表する事業として数少ないもののひとつとなっているので貴重であるとも考えられる。また、会食等について、参加者の自己負担がないため、見直し余地がある。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	近隣市町の状況に合わせ、縮小したい

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性			(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																							
☒ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止			☒ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☒ 費用負担の適正化		<table border="1"><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
			コスト																							
			削減	維持		増加																				
成果	向上																									
	維持	○																								
	低下																									
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																										
いつまでに	なにを、どうするのか？																									
①2～3年後	①参加者へアンケートをとり、宴会部分を会費制にするかを問う。																									
②平成27年度予算	②参加者見込み数の精査																									
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																										
①公費で宴席に臨むことを住民が当然と考えるのか、参加者へアンケートにて問う。																										
②特に無し																										